

入社一年目の教科書

岩瀬大輔著，ダイヤモンド社，2011.

はじめに

筆者は来年から（ようやく）正式に会社員になる．ということで，入社前の宿題として本書の感想を書く事となった．本書を読むのは初めてであるが，その存在は昔から知っていた．以前，とある会社のインターンの関係で岩瀬大輔氏の講演を聴講したことがあり，新入社員の心構えの話を聴いていた．2016 年だったかの話だったと思う．そんなこともあり，これはいつの本だろうと思って背表紙を見てみると第 36 刷であった．どうやら大ベストセラーのようだ．

私は博士後期課程を卒業した 27 歳であり，恐らく本書の想定した新卒とは少し違う．従って，既に身につけた心構えもあるだろうが，27 歳の伸びた鼻を一回折るにはいい機会にもなるだろうと期待して本書を読み進めた．

新入社員のバイブル

この本は「しっかりとした会社員」をつくるためのマニュアルに近いと感じた．新卒社員が持つべき心構えが著者の経験を基にした Tips 形式でまとめられており，その一つ一つの多くに共感が持てた．確かに大学内での評価が高い人もこうした Tips の多くを自然と実践しているし，逆に評価が低い人はこれらが実践できていないことが多い．特に本書で強調されていたと受け取れたのが「身だしなみ」，「約束を守る」，「チームプレイの徹底」，「予習・復習の大事さ」，「勉強の継続」，「どんな仕事でも意味を見つける」といった項目であった．こうした項目はどの組織でも役立つものであろうし，だからこそ，これほどのベストセラーになっているのだろう．

ミスをするのは仕組みの問題だ

より身近な例で言えばスケジュール管理である．私はスケジュールを Google カレンダーでデジタル管理しているが，先日とても重要なスケジュールを失念してしまった．Google カレンダーに登録していたにも関わらずである．先方から確認の連絡が来ていた時には流石に血の気が引いた．通常，重要なスケジュールは頭の中に入っていて，カレンダーを見ずとも前日にはその予定に向けた準備をする．しかし，その前日に突然の計報があり，遅い時間までバタバタしている間に頭からその予定が完全に抜けてしまっていたようだ．実際，当日もしっかり朝には起きて論文を書いていた．だからこそ血の気が引いた．

こうしたことが起こった理由は自分の記憶への過信である．その過信が故にカレンダーの予定にリマインダーをつけていなかったのだ．これまでリマインダーを鬱陶しいと感じ，重要な予定にもリマインダーを付けていなかった．こうして落ち込んでいる時にこの Tip を目にして少し救われたし，気持ちを切り替えて同じことを繰り返さないための対策を考える事が出来た．今では重要な予定にはその前の日の夜と当日の朝にはリマインダーを設定している．

納得できない部分もある

本書を読み進めていくと少し違和感を覚える部分が出てくる．この手の本はいずれも自慢話に陥りがちだ．そして，何か情報の集め方にも問題があるように思われる．新聞を毎朝 2 誌以上読めというのは，近年の大手メディアの報道を見れば偏った知識の刷り込みを招きかねない．また，本書の最後には財務省からのレクを受

けてからメディア出演までの経緯が書かれているが、なぜ財務省が課長級を出してまで必死にレクを入れてきたのか、どういった利害関係のもとで財務省が協力したのかといった背景を考えることなく情報を鵜呑みにしている感がある。

この本は人によっては「意識高い系」というか今風で言えば「社畜のバイブル」とも捕えられかねない。本書は2011年に出版されたものであるが、全体として古臭さが見え隠れする。例えば、「宴会芸は全力で取り組み」は背筋が凍ったし、今それを求めればパワハラだ。そのTipには「何事にも全力で取り組めるかが問われている」と書いてあるが、宴会芸に全力で取り組んで喜ぶのはその世代の人だし、こうした思想の先に時間外労働やサービス残業が存在する。他にも「会社に忠誠を誓え」と暗に言っている内容が散見される。恐らくこの本は、そのようなTipsを実践して現在の地位にある多くは中堅あるいはベテランの男性である可能性が高い教育の責任者には受けの良い内容である。しかし、ワークライフバランスを掲げる会社がこの本を新人に渡そうとするのであれば注意が必要だ。これは仕事人間、そして、上級管理職である岩瀬大輔氏が一年目の部下に求めるTipsであるとの但し書きが必要かもしれない。

もしかしたら、この本を新人研修として渡された私は少し覚悟が必要なかもしれない。本書を新人に渡す担当者は若い人の感性からは上記のように捉えられるリスクを認識する必要がある。皮肉にも本書のTipsの一つに「一冊の中から大きな学びを一つ得られればいい」とあるように、本書の全てを鵜呑みにするのではなく自分の置かれた環境を鑑みて取捨選択する能力が必要な書籍とも言えそうだ。

研究室に配属される学生にはいいかも

とはいえ、冒頭で述べたように社会人のみならず、組織に所属する人間としての心構えとして有効なものも数多くある。特に、それまでの個人プレイが中心の学生生活から研究室という組織に配属される学部生には有効な内容だとも思われる。しかし、取捨選択の能力も同時に未熟であろう学部生には是非この書評も見て欲しいと思う。

おわりに

入社予定の会社から課題図書として送られた本書は社会人一年目のみならず、多くの世代の会社員に共通して求められる心構えがTips形式でまとめられたバイブルである。一度のみならず、初心を忘れかけた時に読み返すのも良いだろう。しかし、時より出てくる自慢話のご愛嬌として、現代社会では通用しない内容も含まれており、全ての内容を受け入れるのは考えものである。会社の教育担当者が本書を新人の課題図書とするならば、会社の方針とは異なるメッセージを与えかねないリスクもあることを認識する必要がある。この書評を読んで興味が湧いた方は、これまでの経験や社会の風潮と照らし合わせながら本書を読むと面白いだろう。